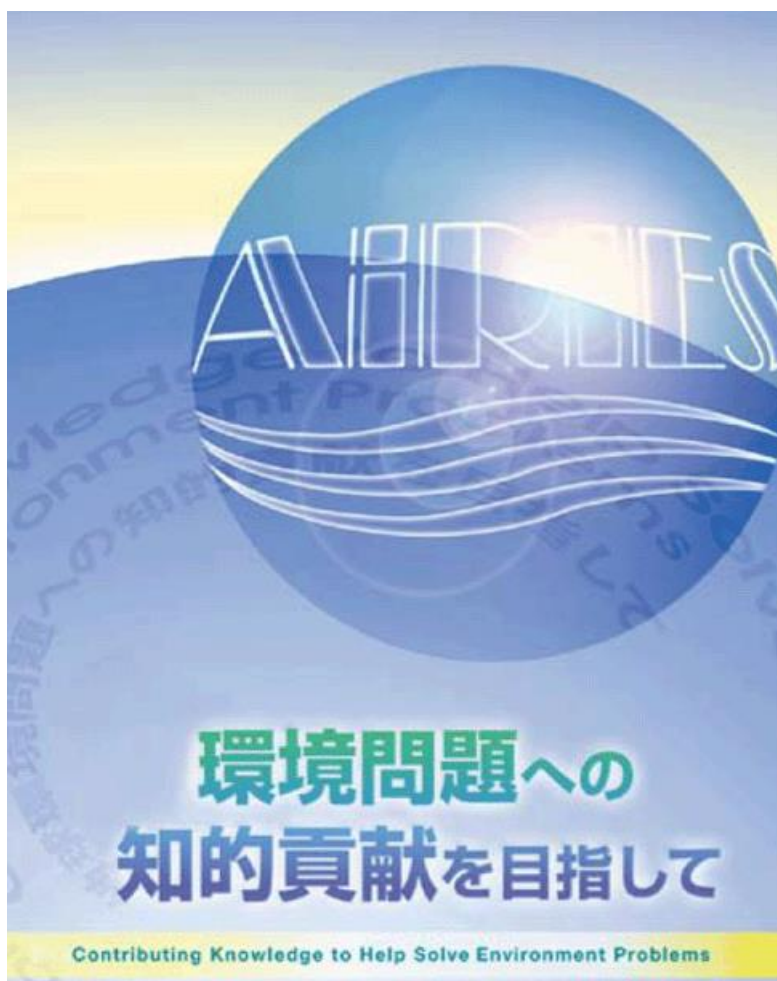


国際環境研究協会ニュース

AIRIES NEWS
AIRIES NEWS

2019年5月 第275号



CONTENTS

- 1 協会業務報告
- 2 AIRIES 随筆 (113) 「末娘のウェディングを終えて」
乙間 末廣 (環境研究総合推進費 プログラムオフィサー)
- 3 温暖化対策最前線 (22) 「負の連鎖について気づいたこと」
石田 愈 (前プログラムオフィサー)
- 4 業務報告

協会業務報告

徳田博保(専務理事)

この業務報告が皆様のお手元に届くころには、長いゴールデンウィークも終わっていることでしょうか。充分満喫されましたでしょうか？

この10連休は、必ずしもすべての人から手放しで喜ばれているわけではなさそうです。

旅行サイトのエクスペディア・ジャパンがゴールデンウィーク10連休に関する意識調査を実施しています。この調査 (<https://welove.expedia.co.jp/press/40015>) によると、ゴールデンウィークを暦通り10日連続で休めると答えた人と休めないと答えた人はいずれも全体の3分の1程度になっています。

「10連休がうれしくない」と答えた人の割合が高い職業では、医師・弁護士・会計士などの専門家が1位(75%)で、主婦・主夫、パート・アルバイトと続いています。連続して休めなかったり、収入減が気になる方がおられるということでしょうか。逆に「10連休がうれしい」人の割合が高い職業は公務員・団体職員(82%)となっていて、「官製10連休」の恩恵を最も受けるのは「官」ということなのかもしれません。

サービス業の方々にとっては地獄であるとか、子供は親の職業に大きく影響されるなどとさまざまな報道があり、また、テロ、事故、火災など悲惨な出来事が尽きることがない状況ですが、皆様無事ゴールデンウィークを過ごされることを祈っています。

さて、協会の業務ですが、今年度は昨年度とほぼ同様に、CO2排出削減技術に係る業務、環境研究推進費に係る業務、マイクロプラスチックに係る業務を中心に実施し、また協会独自の業務として和文学

術誌「地球環境」、英文学術誌「Global Environmental Research」の発行があります。

CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業関連では、交通、建築物、再生可能エネルギー、バイオマス・循環資源、社会システム革新の5分野の事業についてプログラムディレクター・オフィサーが、科学的見地からの助言、進捗管理等を行うほか、応募相談会の開催、展示会での事業紹介、過去の事業のフォローアップ等を実施します。

環境研究総合推進費の関係では、プログラムディレクター・アドバイザー等が環境省による戦略研究や行政ニーズの形成支援、過去の研究の追跡評価等を行います。これらにより、推進費研究・制度の充実に貢献していきます。

マイクロプラスチック・モニタリング手法調和等業務については、昨年度末に国際専門家会合で議論されたガイドライン案を充実させるべく現在メールベースで第一回国際専門家会合以降の参加者と調整を行っています。連休明けには環境省ホームページにアップロードされる予定です。また、昨年度はサンプリング調査を東京湾で実施しましたが、今年度は相模湾で、途上国等でも活用が容易になるよう漁船によるサンプリング手法の検討を行い、その結果を基にガイドラインを充実させます。

学術誌については、英文の「PM2.5 Pollution in Asia」を協会ホームページにアップロードしました。和文の「日本の山岳保護地域の自然環境管理と持続可能な利用」は連休明けにお届けします。

引き続き、みなさまのご指導・ご支援のほど、よろしく願いいたします。



「末娘のウェディングを終えて」

乙間 末廣(環境研究総合推進費 プログラムオフィサー)



今朝、ワイキキのホテルからタクシーで空港に向かうときには小雨がぱらついていましたが、10分ほど走ると止み、前方にうっすらと虹が架かって見えた。8日前に到着した日は雨がしとしと降り、セーターを羽織りたくなる肌寒さで、2月下旬とは言えハワイらしくない天候に、これから先を心配したが、幸いにも、翌日からは穏やかな暖かい天候に恵まれ、滞在期間を通して半袖の薄着で快適に過ごすことができた。今回は、40年前の新婚旅行以来の二度目のハワイである。40年前の記憶はほとんど消えてしまっているが、林立するホテルやコンドミニアムの数は前回と比較にならないし、夕暮れに目抜き通りのカラカウア通りを歩くときの人波は想像以上だった。それでも、瞬く間にビーチ沖に沈む赤い夕日や青空に映えるダイヤモンドヘッドは今も変わりなく見ごたえのある景色だし、多くの観光客を受け入れているにもかかわらず大気や海が清く保たれ、街の清掃が行き届いているのは素晴らしい。

午前中のダニエル・K・イノウエ国際空港はアジア方面へ飛び立つ便が多いせいも、日本人、韓国人、中国人で賑わっている。チェックイン、出国手続き、

セキュリティチェックの長い列を1時間以上かけて通り抜け、ANA181便成田行きに搭乗し自席に落ち着いたのは離陸20分前、座席は老若男女の夫婦、家族連れでほぼ満席である。以外にも新婚カップルは多くない。飛行機は定刻どおり午前11時50分に離陸し、多少揺れたが約1時間後には揺れも治まり飲み物のサービスが始まったので、好みのウォッカトニックをお願いする。甘苦い味を楽しんでいると、ようやくこのころになって緊張がほぐれたのか旅の疲れを感じ出すとともに、ふと一抹の寂しさがよぎる。

思いがけず、ハワイに出かけることになったのは、末娘がハワイでのウェディングを計画したためである。私には3人の娘がいる。息子はいない。今回ウェディングしたのは末娘で、上の二人は既に結婚している。二人目の娘が結婚したころから、寂しいでしょうと皆さんに度々言われるが、娘たちは大学に通い始めるとアパートでの一人住まいを始め、その続きで卒業、就職、結婚となったため、それ以降、実家を生活の拠点とすることはなかった。末娘が大学に入った時から既に10数年経つので、夫婦二人だけの生活もかなり長い。娘たちが結婚したからといって家の中が特段寂しくなることはないし、それどころか、時折帰ってくる時は家族連れで、今ま

でなく家の中が賑やかになる。息子のいない私にとって、娘の夫は、妻が娘たちと買い物に出かけたりおしゃべりに興じているとき、お酒の相手をしてくれたり、勤め先での些細な愚痴を聞いてくれるなど格好の相棒となり、娘たちの帰省は今まで以上に楽しみとなり、孫ができてからは益々その気持ちが強くなった。



それでも家の中の変化を実感する時がある。それは元日の朝である。子供たちが小さい頃から長い間、我が家の元日は、妻が用意してくれるおせち料理をテーブルに並べ、コの字形に、妻と3人の娘が二人ずつ向かい合い、私が中央で「新年おめでとうございます。今年もよろしく。」と挨拶をし、お年玉を渡して始まる。子供たちはわずかな額のお年玉でも、間違いなく毎年大喜びしてくれる。妻のおせち料理にも気合が感じられる。

一人目の娘が結婚して、4人での元日になると、自然にテーブルの座り方も変わり、二人ずつ向かい合って着席するようになった。二人目が結婚すると、3人でのコの字が復活したが、テーブルの空いた空間に気づき、家族のサイズが小さくなったと感じた。この頃には社会人となり収入を得ていた末娘にお年玉を断られたのが少し寂しくて、大げさに笑ってごまかした記憶がある。その末娘が今回ウェディングをした。若い二人は、昨夏に入籍をし、勤務先に

近い都内で新しい生活を始めていて、今年の元日は旦那の実家で過ごすことになり、いよいよ私たち夫婦二人だけで向かい合う元日になりそうだった。40年前の新婚に戻ると思えば何ということはないのだが、古希を迎えるこの年齢でそういう気分でもなく、妻もおせち料理を作るのに気合が入らないようだった。

そこで思案の末、江戸っ子の賑やかな正月を味わおうと考え、今年の正月は浅草辺りにホテルを確保し、東京で初詣巡りをすることにした。初日は浅草寺。午前の比較的早目に訪れたが、既に雷門辺りから多くの外国人や地方からの旅行者で長蛇の列で、仲見世を見物する余裕もなく通過、本堂観音堂に辿り着くまでに1時間半以上要した。観音様に末娘の幸せな結婚をお願いし、2~3分でお参りをすませ、お守りやお札を見ていると後ろからの列に押され、そのままアツと言う間に六角堂方向の出口に出てしまった。和服姿の初詣客はほとんど見られず、残念ながら、イメージしていた江戸っ子の初詣とはかなり違っていた。翌日は明治神宮に出かけたが、やはり1時間以上も行列にまみれ、浅草寺と大差ない光景だった。最後に行った亀戸天神は、近隣からの初詣客が主で、境内に小さな露店が並び、和服姿もちらほら見られ、多少の正月らしさを味わえたが、微かな記憶に残っている幼いころ(60年前)の亀戸天神の正月風景とは様変わりだと思った。という訳で、賑わいを期待したが、雑踏と寂しさを味わうことになった。

ウォッカトニックを飲み終えたころ、食事サービスが来たので、焼肉丼とビールをお願いする。肉厚のアメリカ牛の焼肉は結構美味しく、気持ちがポジティブになり、ビールを飲みながら来年の元日はどのようにしようかと考え始める。やはり、元日は、どこかのデパートでおせち重を調達し、スカイプで子供や孫たちと話しながら、自宅で妻との二人宴会を楽しむことにしよう。機内アナウンサーが定刻の日本時間15時20分に成田に着くと伝えている。到着までにはまだ数時間あるので、一眠りしたいが、機内も外も明るすぎるのが気になる。(了)

温暖化対策最前線(22)

「負の連鎖について気づいたこと」

石田 愈(前プログラムオフィサー)

普段から心掛けていることを2つ挙げるとしたら、第1は知識と知恵の関係、第2は負の連鎖に陥らないことである。前者では、知識の量と知恵の量は比例関係にはなく、最初は知識を得てもなかなか知恵が付かず、あるきっかけで知恵が突然働きますことである。この関係を心得ていれば、好ましい結果がなかなか出てくれないときでも、いつかは出てくれると我慢できる。これについては、以前この協会ニュース(2014年3号、p2)に書かせていただいた。

今回は負の連鎖について書かせていただく。最初の話は、登山好きの方から教えていただいたものである。登山前日、目標の山の麓に到着し、翌日の登山に向けて祝杯をあげる。その夜の天気予報では、翌日以降の天気は快晴ということであった。ぐっすり寝て、朝早く宿を出発した。ところが、途中で天気が変わってきた。前日の予報が快晴であったために、朝の天気予報を聞かずに出発してしまった。天気が悪くなってきても、まさか大荒れになるとは、その段階では考えなかった。しかし、大荒れになって、その焦りで誤った判断を連発し、大事故になってしまう。登山での事故の多くが、この負の連鎖によって生じているということである。その話を聞いて、なるほど、自分にも起こり得る話だと感心した。

もう一つは、千葉大学のA先生を訪問したときのことである。面談は午後1時からで、同行者のB氏と小生とは現地で落ち合うことにしていた。

大学キャンパスは西千葉駅と道路を隔てた所にあり、12時少し前に西千葉駅に到着し、食事をして現地へ向かう予定で出発した。総武線で西千葉駅に向かったが、途中、幕張駅を出発して少しして電車が急停車した。

10分程して“次の新検見川駅までまいります”と放送された。新検見川駅に着いて、ここで降りてタクシーで行くか、復旧を待つか？ まだ時間があ

ると判断し、待つことにした。駅での停車15分程で、“次の稲毛駅までまいります”と放送された。

稲毛駅に着き、再び悩む。ここからだったら一駅なのでタクシー代も高くはないであろう。結局は待つことにしたが、10分経っても放送がない。判断を誤ったか・・・。

幸い、再び発車し、西千葉駅に1時20分前に到着した。駅の隣のコンビニに飛び込み、ホットドックと飲み物を買って、口に詰め込み、千葉大学へ急ぐことにした。道路を渡るために横断歩道に向かうと、同行するB氏が信号待ちをしていた。

2人で目的の場所に向かった。当該事業の関係で小生はこのキャンパスに2回来ていたので、今日の面談場所はその設備があった建物と勝手に思い込んでいた。これが誤りであって、B氏からA先生の教授室だと教えられた。

小生がなぜ間違えてしまったのか。以前もらった資料に、日程とは別のページに訪問場所が記されていたので、日程だけを手帳に移して、場所が違っていることは気付かなかった。もしB氏と会わなければ、小生が勝手に想定していた建物に行ってしまうていて、面談に遅刻してしまっていたであろう。最初の段階での小生の不手際が、負の連鎖と言える大きな失敗を呼ぶところであった。

これらの経験から負の連鎖を見直してみると、共通点に気付く。前者では、登山者と天候の間に天気予報が介在している。後者では、貰っていた資料と自分の間に手帳が介在している。これは止むを得ないことで、そのような状況下では、負の連鎖が起こり得ることを頭の隅にいつも置いておくことが重要なのであろう。(了)



業務日誌



(2019年4月)

4/8(月): CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(環境省)
マイクロプラ事業 打合せ(協会)
9(火): CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(環境省)
10(水): CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(環境省)
マイクロプラ事業 打合せ(環境省)
12(金): 推進費制度 第1回戦略Ⅱ構築・検討専門部会を開催
(環境省)
マイクロプラ事業 打合せ(協会)
15(月): CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(環境省)
16(火): CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(環境省)
17(水): CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(環境省)
18(木): CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(環境省)
19(金): CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(環境省)

CO2 対策事業 打合せ(環境省)
22(月): CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(環境省)
23(火): CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(環境省)
25(木): CO2 対策事業 検討会に出席(大阪)
マイクロプラ事業 打合せ(海洋大学)
26(金): CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(環境省)
マイクロプラ事業 打合せ(東京大学柏キャンパス)

* 推進費制度: 環境研究総合推進費制度運営・検討業務
CO2 対策事業: CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・
実証事業管理・検討等事業
マイクロプラ事業: マイクロプラスチックのモニタリング手法
の標準化及び調和に向けた検討業務

AIRIES NEWS
AIRIES NEWS

編集・発行

一般社団法人国際環境研究協会

(日本学術会議協力学術研究団体)

〒110-0005 東京都台東区上野 1-4-4

TEL: 03-5812-2105

FAX: 03-5812-2106

E-mail: airies@airies.or.jp

Homepage: <http://www.airies.or.jp>